

会議報告書

会議名：令和6年度 第2回千曲市在宅医療・介護連携推進委員会

日時： 令和7年 2月 4日 19時00分 ～ 20時10分

場所： 市役所 302 会議室

1. 議題

1) ACP 啓発資料及び書式の作成について

2) ACP 啓発資料及び書式の活用方法について

2. 議事内容

議題	委員の意見
----	-------

1) ACP 啓発資料及び書式の作成について

事務局より

資料4、資料4-1、資料4-2について説明

委員 わかりやすい資料だと思った。

委員 (7 ページ)

在宅医療を支える専門家に、作業療法士、言語聴覚士も入れていただきたい。

委員 絵や字の間隔等見やすく分かりやすい言葉でまとまっている。

委員 わかりやすい。本人の意思等が記入できる所が良い。

委員 医療行為（気管挿管や、人工呼吸器等）一度つけてしまったら外せない前提の物があるが、そこまで書く必要があるか。

委員 (10 ページ)

1. 人生の最終段階の医療について」の順番

まずは延命治療を「する」か「しないか」の二択が良いのではないか

「する」場合、どんな治療が良いのか。「どこまでするのか。」「痛みだけとるのか」

「延命治療」について

冊子に記載以外にも治療がある事を付け加え（補則）したら分かりやすいのではないか。

冊子の掲載順番

1. 大切な人と話し合う

2. 最期最終的な医療・ケアはどうしますか

3. 最期の時はどう過ごしたいか

4. 残された家族の方に

と順番を終末期に向かう順番にした方が良いと思う

「医療・ケア」から始まるのではなくて、大切な人と「話し合う」ことから始めていくことが現実的と思う。

委員 めくってすぐに、「あなたはどうしたら良いですか」と問いかけた方が良い

委員 一般向けとしては良い

用語については、最低限で良いと思う（実際にわかる人が説明しないとイメージがわからないと思うので）

委員 イラストが現実的ではない

（中心静脈栄養の人が元気すぎる、胃ろうの人が穏やかすぎる、人工呼吸器の人の見た目はもう少し可哀想に見えるはず）

(6 ページ)

「家族が手一杯で介護できない」の記載について、変更した方が良い（家族が介護するのが基本ではないため）

(5 ページ・6 ページ)

「積極的な治療は行わず、痛みや苦しみを軽減したい場合」「ホスピス」について
がん治療の方とそうでない方について、分けをする必要があるのではないか。

2) ACP 啓発資料及び書式の活用方法について

事務局より

作成後の配布方法について、ケアマネ事業所、医療機関、訪問看護事業所、いきいきサロン、包括支援センター窓口、介護保険制度説明会、65 歳の介護保険証送付の際の郵送等考えられるが
いかがか。

委員 冊子を作るだけではなく、啓発、講座をし、広めていくことが効果的

医師会も、病院としても、協力する。歯科医師会、薬剤師会も同じだと思う。

委員 市報等あらゆる手段を使って、話し合っておくことを啓発していくことが大事。

講演会など、年 1 回でも啓発していく事が大事。

委員 郵送は、コストをかけても効果がない可能性もある。講演会のような場を設けては。

65 歳以上となると、自分のことより親のこととして考える機会になると思う。

委員 65 歳で元気な方は、働いていて自分のこととして考えられないのではないかと。

訪問看護の立場で、この冊子があると、話ができる。

委員 65 歳よりも、75 歳の後期高齢の方の方が、効果的ではないか。

委員 60 歳代～70 歳代の介護認定の申請をされた方にも送っても良いのではないかと。

委員 若い人（親を看る立場の人）にも啓発をするべき。

委員 40 歳代、50 歳代で、健康保険だと国保、節目健診等で QR コード等検討して欲しい。

3. 今後の方針

1) ACP 啓発資料及び書式の作成について

イラストなど伝わりにくい部分もあるが、変えられる部分と変えられない部分があるので、いただいた意見を参考に進めていきたい。

まずは出してみて（市民の）皆さんの反応を見たい。

2) ACP 啓発資料及び書式の活用方法について

40 歳以上の人に市報、QR コード、SNS 等活用し、広く周知啓発していく。

公民館、公共施設等にも置いていく。

講演会に関しては予算もあるので徐々に進めていく。